

## 協会病院に陰圧テント

コロナ対応 宮坂建設が無償貸与

宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文氏）は、地域貢献の一環で購入した医療用陰圧テントのあいちセツト帯広協会病院に貸し出した。同社は貸し出し希望団体募集しており、今

回は第1号。テントは同病院の駐車場西側に設置され、当面は発熱外来の受診者の待機場所などとして活用される。帯広協会病院は帯広保健所経由で発熱状態のある患者を受け入れ、新型コロナウイルス感染症の疑いがあるかを発熱外来で検査している。現状で発熱外来の利用は1日平均3人程度。受け入れは日増しに進んでいるが、発熱以外の患者の待合スペースのすみ分けなどが課題になっていた。

宮坂建設工業は6月、冷却付きの医療用陰圧テントを3基購入。維持費を除いて無償貸し出す。今回貸し出したのは幅4.5メートル・高さ2.5メートルのテント。期間は現時点で来年3月末までだが、病院側の希望で更新もできるといふ。15日早朝、社員が同病院を訪れ、テントを設置した。吉田一郎副院長は「今後発熱症状のある患者を受け入れるに当たり、物理的に空間を分けられるのはありがたい。現在は院内にカ



設置された陰圧テントの前で、宮坂建設工業社員の説明を受けると帯広協会病院関係者

所のみの、陰圧機能付きの部屋も増やしたい」と話した。同社は「既に管内の別の医療機関への貸し出しが決まり、さらにセツトの追加購入もした。『コロナとの闘いが長期戦になる中、安心して医療機関を利用できるよう力になりたい』（武山純総務部長）としている。」（本田龍之介）

## 陰圧テントでコロナ拡散防げ

宮坂建設 帯広協会病院に無償貸与



帯広協会病院側の駐車場に設置された医療用陰圧テント（北波智史撮影）

宮坂建設工業（帯広）は16日、新型コロナウイルスの感染拡大に備えて購入した医療用陰圧テント3基のうち1基を帯広協会病院の西側駐車場に設置した。同病院の発熱外来の受診者が診察を受けるまでの待機場所として活用される。陰圧テントは高さ2.5メートル、陰圧室（約20平方メートル）と待合室（約10平方メートル）に分かれている。陰圧室に専用の機械を設置して気圧を下げ、室外にウイルスが漏れるのを防ぐ。貸し出しは無償で、この日は同社の社員ら約10人がテントを設置し、病院職員らに使い方などを説明した。設置期間は来月3月まで。

同病院は、新型コロナウイルス感染症の疑いがある人を診察する発熱外来を3月に開設。発熱外来専用の診察室に近い西側駐車場に、診察までの待機場所としてイベント用テントを設置して対応していた。感染症への対応が長引くことが予想されることから、エアコンを備え、断熱性や気密性の高い陰圧テントを借りることに決めた。同病院の吉田一郎副院長は「感染の疑いがある人と一般の外来患者の接触を避けるために使いたい」と話した。同社は近く、管内の別の医療機関に1基を貸し出す予定で、8月中旬にはさらに2基を追加購入する。武山純総務部長（44）は「地域のために役立ててもらえれば」と話している。」（鈴木宇星）

電子版に動画



宮坂建設工業（本社・帯広）が医療機関への貸し出しを前提に導入した待機場所となる。病院駐陰圧テントが15日、北海道社会事業協会帯広病院に置く病棟に隣接して同社社員が設置した。

6月にB  
CPDの一環  
で陰圧テ  
ント3張り  
を購入し医  
療関係者向  
けに説明会  
を開いたと  
貸し出し第  
1号として  
駐車場西側  
に設置した

## 帯広協会病院に貸し出し 宮坂建設工業 陰圧テント

「帯広発」宮坂建設工業は、6月に購入したテント3セットを無償で貸し出した。6月には医療関係者を招いて設置説明会を開催。説明会には帯広協会病院の担当者も参加し、説明会後すぐにテントの借り受けを申し入れた。

15日は、同社から役員ら10人が帯広協会病院に集まり、駐車場の一角にテントを設置。エアコンや照明などの機器も設置した。帯広協会病院は、感染が疑われる患者について保健所から指示があった場合に診察を行っており、今回借り受けたテントを患者の待機場所として使用する考え。入院患者と一般外来患者と分離することで、院内感染の防止を図っている。

吉田一郎副院長は「一番恐れているのは抵抗力の弱い入院患者がウイルスに感染してしまうこと。このテントを活用することでリスクは大きく減る。異業種の方から支援をいただくことができ、大変強く感じている」と感謝していた。

同社の武山純務部長は「十勝でも感染者が増えているので、安心して来院できるように力になれば」と話していた。

なお、同社は、さらに2セットを追加発注済み。また、ほかの医療機関への貸し出しも予定されている。引き続き地域のために支援を行っていく。

### 発熱外来の待機場所

吉田一郎副院長は「院内感染を最も心配しているのが、一般外来との動線に分けるのが目的だ。病院としても陰圧スペースを増やしたいが、まだ時間がかかる状況。今回、計5張り体制となる予定で、今後も要請に対応する考えだ。」（帯広）

「帯広発」宮坂建設工業は、6月に購入したテント3セットを無償で貸し出した。6月には医療関係者を招いて設置説明会を開催。説明会には帯広協会病院の担当者も参加し、説明会後すぐにテントの借り受けを申し入れた。

15日は、同社から役員ら10人が帯広協会病院に集まり、駐車場の一角にテントを設置。エアコンや照明などの機器も設置した。帯広協会病院は、感染が疑われる患者について保健所から指示があった場合に診察を行っており、今回借り受けたテントを患者の待機場所として使用する考え。入院患者と一般外来患者と分離することで、院内感染の防止を図っている。

吉田一郎副院長は「一番恐れているのは抵抗力の弱い入院患者がウイルスに感染してしまうこと。このテントを活用することでリスクは大きく減る。異業種の方から支援をいただくことができ、大変強く感じている」と感謝していた。

同社の武山純務部長は「十勝でも感染者が増えているので、安心して来院できるように力になれば」と話していた。

なお、同社は、さらに2セットを追加発注済み。また、ほかの医療機関への貸し出しも予定されている。引き続き地域のために支援を行っていく。

### 各企業等の社会貢献活動

#### 院内感染防止に期待

宮坂建設工業

#### 病院に陰圧テント無償貸与

【帯広発】宮坂建設工業（帯広）は15日、北海道社会事業協会帯広病院（帯広協会病院）に陰圧テント1セットを無償で貸し出した。6月には医療関係者を招いて設置説明会を開催。説明会には帯広協会病院の担当者も参加し、説明会後すぐにテントの借り受けを申し入れた。

15日は、同社から役員ら10人が帯広協会病院に集まり、駐車場の一角にテントを設置。エアコンや照明などの機器も設置した。帯広協会病院は、感染が疑われる患者について保健所から指示があった場合に診察を行っており、今回借り受けたテントを患者の待機場所として使用する考え。入院患者と一般外来患者と分離することで、院内感染の防止を図っている。

吉田一郎副院長は「一番恐れているのは抵抗力の弱い入院患者がウイルスに感染してしまうこと。このテントを活用することでリスクは大きく減る。異業種の方から支援をいただくことができ、大変強く感じている」と感謝していた。

同社の武山純務部長は「十勝でも感染者が増えているので、安心して来院できるように力になれば」と話していた。

なお、同社は、さらに2セットを追加発注済み。また、ほかの医療機関への貸し出しも予定されている。引き続き地域のために支援を行っていく。



陰圧テントの設置を行う宮坂建設工業の社員たち